

厚生労働科学研究費補助金（免疫・アレルギー疾患政策研究事業研究事業）
（総括）研究報告書

アレルギー患者QOL向上のための医療従事者の効率的育成に関する研究

研究代表者 勝沼 俊雄

研究要旨

アレルギー診療コメディカルがラーニング教材に対して求める内容を検討し、その検討結果に基づいた喘息治療薬吸入手技のeラーニング教材開発し妥当性を検証する。さらに同様の手法により、アレルギー性鼻炎治療薬鼻噴霧手技のeラーニング教材を開発しeラーニングがアレルギー性鼻炎（スギ花粉症）患者の重症度・QOLに及ぼす効果を評価する。

勝沼俊雄 東京慈恵会医科大学・小児科・教授
大矢幸弘 国立成育医療研究センター・アレルギーセンター・センター長
伊藤靖典 長野県立こども病院・小児アレルギーセンター・センター長
佐藤泰憲 慶應義塾大学医学部・准教授

Part 2で対象とする疾患はアレルギー性鼻炎（スギ花粉症）である。1年目に鼻噴霧の手技を薬局で指導する薬剤師を対象とした聞き取り調査を実施し、1年目後半に教材の開発を開始する。その後、同教材で研修を受けた薬剤師を被験群、研修を受けなかった薬剤師を対照群として、それぞれ指導が患者のQOL及びアレルギー症状に及ぼす効果を比較する。患者のQOL評価には妥当性の認められた質問紙（JRQLQ、AASS）を使用する。

A. 研究目的

1. アレルギー診療コメディカルが希求するeラーニング教材の検討
2. 上記結果に基づいた喘息治療薬吸入手技のeラーニング教材開発および妥当性検証
3. アレルギー性鼻炎治療薬鼻噴霧手技のeラーニング教材の開発およびeラーニングが患者の重症度・QOLに及ぼす効果の評価。

B. 研究方法

本研究計画はPart 1とPart 2で構成される。Part 1で対象とする疾患は気管支喘息である。まず、ステロイドの吸入手技を指導する看護師を対象として聞き取り調査を実施し、受講者のニーズに合致したeラーニング教材（以下、教材）を作製する。その後、同教材で研修を受けた被験群と従来型の講習会を受講した対照群とで手技の指導方法を比較する。指導の適切性を評価するのは盲検化された評価委員会とする。ただし、可能であれば1年目に予備的な検討を実施し、評価に伴う問題点を抽出して2年目の試験の実施可能性を高める。

G. 研究発表

1. 論文発表：なし
 2. 学会発表：なし
- （発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

H. 知的財産権の出願・登録状況

C. 研究結果

1年目終了（令和5年3月）までに、①聞き取り、②eラーニング教材作製、③パイロット研究としての少人数を対象に従来型講習会開催、およびeラーニング教材配信を終了した。2年目の初期（令和5年4月）に手技の評価を行う予定である。

D. 考察

1年目はほぼ計画通りの進捗が得られた。2年目はPart 1に関して既述のパイロット研究結果をもとにより大人数での比較検討を行う。また鼻炎の教材作製を行い、薬剤師およびアレルギー性鼻炎（スギ花粉症）患者への教育効果を検証する。

E. 結論

1年目は順調に研究を実施できた。

F. 健康危険情報

該当する懸鉤危険情報なし

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他

開発したeラーニング教材（喘息吸入指導法、アレルギー性鼻炎鼻噴霧指導法）は本研究終了後アレルギーポータルにて公開予定。